

平成28年度

# 第1回三重県経営戦略会議

平成28年7月26日（火）



## 議題 ポストサミット

～サミットの「レガシー」を三重の未来に～



# お伊勢さん菓子博2017

2017年4月21日(金)～5月14日(日)開催

お伊勢さん菓子博2017  
公式キャラクター  
いせわんこ



# 目次

	(頁)
1. はじめに	..... 1
2. 伊勢志摩サミットの「レガシー」を三重の未来に 生かすポストサミットの展開 ～サミットの「レガシー」を最大限に生かし、 三重を持続的に発展させていく～	..... 2
3. 伊勢志摩サミットの成果と今後に向けて	..... 3
4. ポストサミットの取組	
(1) ポストサミットの具体的な三重県の取組	..... 9
(2) サミットの成果を次世代に引き継ぐための 「宣言」案の方向性イメージ	..... 10

# 1. はじめに

伊勢志摩サミットの開催は三重にとって千載一遇のチャンスであり、これを一過性にせず、サミットの資産(レガシー)を次世代に継承していかなければなりません。三重県では、「ポストサミット」を「サミットの『レガシー』を三重の未来に生かすこと」と定義し、サミットで高まった知名度や地域の総合力、また会議自体の成果を活用した様々な取組の展開により、さらなるステージへと向かって、「レガシー」を最大限に生かし、三重の持続的な発展につなげていきます。

## 論点

- ①三重県としては、「ポストサミット」の取組として、「人と事業を呼びこむ」、「成果を発展させる」、「次世代に継承する」取組を具体的に展開しているところですが、これらの取組を進めていくにあたり必要とされる視点について、ご意見をいただきます。
- ②サミットの成果をふまえて、県民をはじめさまざまな主体が、アクティブ・シチズンとして三重県のめざす姿を共有するとともに、新たな「三重づくり」に向かって行動していくための「宣言」をとりまとめていきたいと考えています。つきましては、「宣言」の内容を検討するにあたり必要な視点やキーワードについて、大局的にご意見をいただきます。

## 2. 伊勢志摩サミットの「レガシー」を三重の未来に生かすポストサミットの展開 ～サミットの「レガシー」を最大限に生かし、三重を持続的に発展させていく～

### サミット開催

#### 「伊勢志摩サミット 三重県民会議」 取組の基本方針

- ①開催支援
- ②おもてなし
- ③明日へつなぐ
- ④三重の発信



#### 【成功要因】

- ①県民の皆様の活躍
- ②安全な開催
- ③各国首脳等による神宮訪問
- ④情報発信

### サミットの「レガシー」

サミットの「レガシー」を最大限に生かし、三重を持続的に発展させていく「ポストサミット」の取組へ

#### サミットの「レガシー」

サミットの開催により地域にもたらされる有形無形の好影響

- ①知名度等の向上
- ②会議自体の成果
- ③地域の総合力の向上

### 「ポストサミット」の取組

- ・サミットが開催されるからこそ生まれる(発展する)取組
- ・アクティブ・シチズンとしての県民の行動を促す取組
- ・サミット開催後、一定期間にわたって効果が持続する取組

#### 県民

サミットを契機とした「宣言」  
将来に向かってアクティブ・シチズンとして活躍するため、目指す姿を共有したうえで様々な行動を実践

協創の仕組み

#### 三重県

#### 「ポストサミットの具体的な取組」

- ①人と事業を呼びこむ  
【MICE誘致】【インバウンド】  
【食の産業振興】【国際戦略】
- ②成果を発展させる  
【安全・安心】  
【サミットの聖地】  
【環境】
- ③次世代に継承する  
【次世代育成】【女性の活躍】

サミットの成果を次世代に引き継ぎ、今後の「三重づくり」へ

### 3. 伊勢志摩サミットの成果と今後に向けて

#### ① 日本人の精神性を象徴する伝統・文化の継承とおもてなし

##### 各国首脳等による 神宮訪問

神宮には他者や多様な価値観を受け入れる寛容さがあり、また、1,300年に渡り式年遷宮を行い常若の精神を受け継いでいる。こうした日本人の精神に各国首脳等が感銘。



##### 情報発信 (三重情報館での参加)

- ・鈴鹿墨を使用した書のパフォーマンスと書の実演
- ・伊勢型紙、伊賀組みひもの実演
- ・伊賀忍者特殊集団「阿修羅」による忍者ショー
- ・現役海女による講話と対話



##### 研修等による おもてなし力の向上

- ・訪日外国人によるおもてなし研修  
(飲食店、旅館業等)



- ・インバウンド対応接遇研修(各市町観光部署・観光協会・観光案内所等職員等)
- ・サミットに関わった多くの事業者による貴重な経験(ジュニア・サミットや首脳会議等の受入れ、各国要人等の受入れ、食事・食べものの安全な提供等)

日本を象徴する伝統・文化の継承

県民の中に脈々と息づいているおもてなしの心

## ②世界平和の実現に向けたメッセージの発信

### 伊勢志摩サミットの開催

G7サミットの開催地として選ばれ、G7サミットを安全・安心に開催



### 各国首脳等による 神宮訪問

世界平和の確立に向けたメッセージを発信



### 伊勢志摩サミット後の オバマ大統領の広島訪問

戦没者を追悼し、「核兵器のない世界」を目指す国際的機運を再び盛り上げる上で、極めて重要な歴史的機会



外務省提供

### 官民協働による 安全・安心の取組

官民で協力してテロ等を未然に防止するための「テロ対策パートナーシップ」の取組（41機関が参加）



## 世界平和に向けたメッセージの発信

## 安全・安心の取組の継続

### ③自然と共生しながら地域が持続的に発展

#### 伊勢志摩国立公園での開催

- ・戦後初めて指定され、国立公園の中で最も定住人口が多い伊勢志摩国立公園での開催
- ・自然の創った美しさと人間の創った美しさが融合した景観の発信



#### 伊勢志摩サミットで議論されたテーマ

- ・エネルギー・環境問題
- ・気候変動と脱炭素化  
(ジュニア・サミット成果文書「桑名ジュニア・コミュニケ」)



#### 情報発信

- ・首脳会議や配偶者プログラム、IMCにおいて、伊勢エビや伊勢マグロ、アワビ等の海産物、松阪牛や伊賀牛、伊勢茶等の農畜産物、さらには日本酒、加工品などの県産食材等の使用(県内26市町から少なくとも269品目)
- ・首脳会議用円卓への尾鷲ひのきの使用のほか、会議用机・椅子、食器類等県産品の使用(少なくとも42品目)



豊かな自然環境や生物多様性の保全

豊かな自然が育む海山の食材の活用や自然体験活動の促進

## ④若者が郷土に誇りを持ちグローバルに活躍

### 公式行事等への参加

- ・<首脳プログラム>
- ・県内小学生20人による植樹のお手伝い
- ・<配偶者プログラム>
- ・相可高校食物調理科生徒等による食事の提供
- ・伊勢音頭保存会・「伊勢っ子」との踊りによる交流



### ジュニア・サミット参加

- ・日本代表としての参加（高校生4名）
- ・討議に資する視察への参加（案内・交流）（四日市高校）
- ・県内分散型体験・交流行事への参加（案内・交流）（各地域の高校生）



### 国際感覚を学ぶ授業等

- ・国際理解・国際交流プログラムの実施（計91回実施(H27年度)）
- ・外務省事業「イチからわかる!サミット塾」の実施（小学校21校、高校8校で実施）



- ・サミット給食の実施（計292回実施）

### 三重の高校生サミット

- ・ジュニア・サミット日本代表としての参加、同体験・交流行事への参加、国際地学オリンピック生徒実行委員、大学生、県外のサミット関連事業等への参加



## 国際交流

グローバル人材の育成

若者が海外に目を向けて行動

## ⑤ 多様性を認め合いだれもが活躍できる環境

### 女性の活躍

- ・「女性の能力開花支援のためのG7行動指針」を採択
- ・現役海女(85人)が配偶者の方々と交流



- ・会場ホテルの女性総料理長がワーキングディナーの食事を提供

### 障がい者の活躍 (配偶者プログラムでの参加)

- ・お菓子の提供(はあぶ工房togetherによるシフォンケーキ、維雅幸育会ふっくりあもオンマールによる伊賀の飛猿サブレの提供)
- ・障がい者等とのパラスポーツ体験



### 在日外国人の活躍

国際理解・国際交流プログラムでの講師派遣(17回)



女性の活躍      障がい者の活躍      外国人の活躍  
働き方改革      ライフスタイルの変革

## ⑥ 県民によるイノベーションで世界から選ばれる三重の実現

### 県民の皆さんの大活躍

「クリーンアップ作戦」、「花いっぱい作戦」など、おもてなし大作戦の県内全市町での展開



### 外国語案内ボランティアの活躍

- ・10代から80代まで幅広い層から1,003名応募
  - ・300名採用(277名活動)、約2,700名の外国人に対応
- ※企業・学校単位の協賛事業による派遣含む339名



### 配偶者プログラムでの参加

- ・海女によるお出迎えや交流、鳥羽市女将団体によるお出迎え(真珠島交流プログラム)
- ・伊賀くみひもの実演、伊勢茶手もみ実演と体験(IMC視察)



地域をより良くしようとする意欲や郷土に対する愛着・誇りの高まり

世界の中の三重、世界の中の伊勢志摩という意識のめばえ

伊勢志摩サミットを安全・安心に開催した経験 アクティブ・シチズンとして活動 8

# 4. ポストサミットの取組

## (1) ポストサミットの具体的な三重県の取組

サミットの開催は三重にとって千載一遇のチャンスであり、これを一過性にせず、サミットの資産を次世代に継承していかなければなりません。  
⇒三重県における「ポストサミット」を、《サミットの「レガシー」を三重の未来に生かすこと》と定義し、そのために具体的な取組を展開していきます。

### サミットの「レガシー」

サミットの開催により  
地域にもたらされる  
有形無形の好影響

#### ①知名度等の向上

- ・「日本人の心のふるさと」三重・伊勢志摩の知名度の向上や評価・関心の高まり
- ・県民と海外・世界との距離が縮まること 等

#### ②会議自体の成果

- ・宣言、方針、共同声明等や、それらに基づく計画、取組 等

#### ③地域の総合力の向上

- ・県民や地域の一体感の醸成
- ・郷土に対する愛着や誇りの高まり
- ・地域に対する理解の深化、地域のネットワークの強化
- ・地域で自らイノベーションを起こそうとする県民の行動の活発化(アクティブ・シチズンの増加)
- ・おもてなしの力の向上
- ・「ダイバーシティ」の視点による地域の深化
- ・県民力で「安全・安心」に取り組んだ経験 等

### 具体的な取組

- ・サミットが開催されるからこそ生まれる(発展する)取組
- ・アクティブ・シチズンとしての県民の行動を促す取組
- ・サミット開催後、一定期間にわたって効果が持続する取組

#### ①人と事業を呼びこむ

(知名度等の向上を最大限に生かし、国内外の人びとと事業を呼びこむ取組)

- 【MICE誘致】 海外MICE誘致促進事業
- 【インバウンド】 海外誘客推進プロジェクト事業  
地域活性化(観光活性化)ファンド組成事業
- 【食の産業振興】 みえの農林水産物の魅力総合発信事業  
「みえの食」グローバル市場獲得推進事業
- 【国際戦略】 グローバル創業支援事業  
外資系企業ワンストップサービス推進事業

#### ②成果を発展させる

(サミットそのものの成果を引き継ぎ発展させる取組)

- 【安全・安心】 安全安心まちづくり事業(一部)
- 【サミットの聖地】 みえの農林水産「八百万サミット」開催事業  
世界に開かれた魅力ある三重づくり促進プログラム事業
- 【環境】 みえの環境技術移転国際会議開催事業

#### ③次世代に継承する

(サミットを通じて高まった地域の総合力を、次世代の育成や地域の魅力向上につなげる取組)

- 【次世代育成】 三重県高校生サミット開催事業  
大学生・留学生との交流事業
- 【女性の活躍】 未来へつなぐグッドワーク・グッドライフ創造事業

「伊勢志摩サミットの開催後、我が国での次のサミット開催地が決定するまで」を三重県の「ポストサミット期」と捉え、長く効果が持続すると期待される取組を展開していく。

伊勢志摩国立公園指定70周年(平成28)、全国菓子大博覧会・三重(平成29)、三重とわか国体・全国障害者スポーツ大会三重大会(平成33)などを経て、第63回神宮式年遷宮(平成37「山口祭」〜平成45「遷御の儀」)

持続的に発展する三重の未来へ

## (2) サミットの成果を次世代に引き継ぐための「宣言」案の方向性イメージ

サミット開催に向けて、オール三重で一丸となって受け入れ準備を進めてきた結果、サミットの成功だけでなく、一人ひとりの行動が、一つの目的に向かうことによって大きな力として発揮されました。また、三重の地が県民の誇るべきものであることが実感できたところです。

サミットで得た多岐にわたる成果を一過性のものとせず、さらなる次のステージへと展開し、次世代に引き継ぎ、新たな「三重づくり」へとつなげていくため、様々な取組が県民の間に広がることを期待しています。

そのために、サミットで培われた行動力をもって、新たな「三重づくり」について目指す姿を共有したうえで、県民が将来に向かってアクティブ・シチズンとして活躍するために、県民の行動面の促進につながる「宣言」を行い、様々な行動の実践につなげていきたいと考えています。





# 三重とこわか国体

第76回国民体育大会 ときめいて人 かがやいて未来 2021